

平成25年度第2回名張市快適環境審議会会議録(概要)

1.開催日時 平成26年1月21日(火)14時~16時05分

2.開催場所 名張市役所2階 庁議室

3.出席者

委員 田中 正一

谷口 智雅

朴 恵淑

井村 欣弘

田畑 博

坪田 公兒

平井 行夫

細川 博通

吉井 和代

吉岡 正夫

事務局 生活環境部長 夏秋 佳生

生活環境部理事 藤岡 善光

生活環境政策室長 石田 圭二

環境対策室長 名和 健治

環境保全担当室長 藤野 泰司

伊賀南部環境衛生組合

業務室長 酒井 隆郎

環境対策室 室員 岡田 隆之

環境対策室 室員 平尾 美津代

4.欠席者 委員 加藤 進

三上 章

井川 敏雄

5.内容

(1)名張市グリーンエネルギービジョン(案)について

(2)その他

## (1)名張市グリーンエネルギービジョン(案)について

会長

皆様こんにちは。早くも第2回になります。前回、本当にありがたかったことは、委員の皆さんから本音が言える審議会じゃないかと思われる活発な意見をいただきました。それぞれ立場は違うが、名張市を世界一誇れるような快適環境都市にしたいという思いは同じだったと思います。その後、事務局に頑張っていたら、県もさることながらいろんなところとコミュニケーションをとりながら、私たちの第1回目の意向を本当によく汲んでいただいたと思う案が出ました。これについてもまた皆さんからの忌憚のないご意見をいただきまして、スマートシティなばりというのが、どういう方向を目指していくのかをこの場に参加していない名張市民にこれを読んでいただくときに、私たちと同じような気持ちで頑張っていけるようなものになればと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。資料は新しいバージョンと直す前のバージョンいろいろ持っていますが、まず何がどのように変わっているのかを、事務局からご説明いただいた後、皆さんのご意見もいただき、いい形で案がまとめればと思っております。事務局からよろしくお願いします。

事務局

生活環境部の藤岡です。本日はどうもありがとうございます。それでは、私のほうから資料に基づきご説明を申し上げたいと思います。資料についてご説明申し上げる前に、前回11月5日の快適環境審議会でもいただきました意見について、議事録をとりホームページにも掲載しておりますが、いろいろ出たご意見を抜粋してお話させていただきたいと思います。要点は、1つは、エネルギー問題は温暖化と直結しているということ。それから当初の計画においてはCO<sub>2</sub>等の削減目標がない。特に製造部門や民生運輸、その他の部分などセクターごとのCO<sub>2</sub>排出の現状値や、基準年度における削減目標はどうかというご意見もいただきました。それから、現在取り組んでいる名張市のバイオスタウン構想の進捗状況はどのようなものか。また、産業振興ビジョンの内容は、どんな取り組みをしているのか。そのようなご意見も出されました。そして、特に三重県で策定されている地球温暖化の実行計画においては、2020年までに2005年を基準に20%削減を目標と示されているではないかということでした。そのような中で、一体名張市としてこういった方向でいきたいのか、このエネルギービジョンをどのような形にもっていききたいのか。今のままでは国の一般的なものしか書かれていない。もっと具体的なものを示してほしい。このような意見が出されました。そして計画書はよく言えば何もかも網羅されているが総花的なものだというようなご意見もいただきました。それから目標設定が作文になっているので、最後の評価はしにくいということ。それからコスト、予算が触られていない。そのような中で、投資が必要なことであるとか、市民の協働でできるものであるとか、そういったしなげづくりも大事ではないかと。これがスマートシティという概念がないではないかと。どのように取り組んでいくか考えたときに、まずはその地域での特色のあるスマートシティという考え方を取ることが1点だと。2点目としては、行政としては、事業を網羅せざるを得ないと思うが、名張の特性と、何から手掛けるかというプライオリティーを決めて取り組むべきだと。そして、3点目に、行政自ら率先して見える化をしないと、市民や事業者からの協力は得られないと。そして説得するには、ロードマップも必要であるといったご意見をたくさん出され名張らしさが若干見えてきたという中で、市民ガバナンス、市民が主役で市民が引っ張る。そこに行政がコラボしていくという名張らしさを組み込んだ形で策定をするべきだと。そして、最後にその表書の概念という部分でございますが、当初は自然とエネルギーとコミュニティという3つの要素を踏まえての概念を掲げていたわけですが、全体を巻き込むのがコミュニティ、地域であり、その地域の中に自然構成の社会があると。2つ目に、名張では、ゴミの循環型がリードしていると。ゴ

ミも二酸化炭素排出やエネルギーに直結していると。また、エネルギーを極限状態までなんとかしようというのではなく、快適な低炭素社会の実現に向けた取組が必要であるため、低炭素な社会も1つあっていいのではないかと、すなわち、自然と循環型と低炭素があり、そこに主役となる市民・事業者と行政がうまくコラボする、そのような概念が好ましいのではないかと会長のほうからご意見が出されたところです。その後、庁内の政策調整会議や議会へも原案のままご説明を申し上げましたが、その事業内容の取組、事業そのものへの意見ではなく、トータル的にこの計画書はパブリックコメントを求めないのかとか、25年度から29年度までの5か年計画でよいのかとか、目標数値も必要ではないか。それから現在バイオマスタウン構想で取り組んでいる未利用間伐材等の利用の記載も必要ではないか、もう1つは、スマートシティという大きな構想の中のエネルギー分野の計画であるということを明確にすべきだということが意見として出されたという状況でございます。そういったことを踏まえながら、今回事務局で検討を加えて、変更させていただきたく、今日提案をさせていただいた資料でございます。

中身の説明に入らせていただきます。『変更・修正箇所』という取りまとめたものをご用意させていただいております。まず、表紙ですが、はじめは名張市グリーンエネルギービジョンという形で策定していましたが、エネルギービジョンと限定してしまうと非常に事業内容が太陽光発電に偏っている。また、計画内容も事業規模も小さくて乏しいという状況の中、この間の意見を踏まえ、人・地域・自然・省エネ・新エネ・低炭素・循環型これらがリンクして、低炭素型の都市をつくり上げていく、推進していくための事業を展開していくことが、名張市型のスマートシティの創造につながるという考えで、スマートシティなばりを目指すためのエネルギーにかかる行動計画として、今回、スマートシティなばりエネルギーアクションプランに名称変更させていただいたと。目指すためのエネルギーにかかる実践行動計画という形で今回の計画をまとめたいと考えています。そして、旧の1ページの『はじめに』でございますが、前は文章もよくなく、スマートシティとは何だということをしつこく説明を書いているが、内容的にはあまり触れられておらずピントがぼけているというご意見もありましたことから、今回このエネルギーアクションプランを作るということを明確にし、『はじめに』をまとめました。1番、下から8行目のあたりから『スマートシティ構想の推進を視野に入れつつ、本市におけるエネルギー施策の総合的かつ具体的構造計画としてこのアクションプログラムを策定するもの』とした。そして、この計画に基づき、『市民や事業者の皆様や関係機関との連携を図り、太陽光や小水力などの恵まれた地域資源を活用した新エネルギーの積極的な導入を推進するとともに、省エネルギーの推進など効果・効率的なエネルギー活用と安定供給の確保を図ることにより、市民の安全、安心の確保、快適で質の高い暮らしと地域の創造につなげていきたいと考えています。』という形で、修正をさせていただきました。続きまして次のページですが、この計画の位置付けという枠の中で、まん中のほうに書いておりました『グリーンエネルギービジョン』という部分について、この計画名称が変更、修正することに伴い『スマートシティなばりエネルギーアクションプラン』と修正しました。また、庁内の政策調整会議で意見としてありましたが、このエネルギーの事業を推進していくについては、CO<sub>2</sub>の削減にも繋がってくるということから、今回この国県の施策の枠の中に、『地球温暖化対策の推進に関する法律』を一行添えました。これを修正して差し替えたいという考えです。続きまして、本冊16ページで、新規に挿入ということで、『二酸化炭素排出量の現状』ですが、前回の意見の中で、名張地域におけるCO<sub>2</sub>の排出量の現状数値が盛り込まれていないというご意見もあり、県の地球温暖化対策課のほうとも相談をさせていただきながら、1つには、環境省から出されている地球温暖化対策地方公共団体実行計画策定支援サイトに、日本全国の地域ごとにおける二酸化炭素排出量現状が出されておりましたので、それを今回、名張市の現状の1つの資料という形でここへ挿入させていただきました。これにつきましては、2010年

度までの数値ということで、2011年、12年度の新しい数値については、1年ないし2年遅れで公表される状況ですので、今の最新の情報としては、2010年度の排出量が現状として出ささせていただきました。しかしながら、この数値があるものの、名張市がこの先取り組んでいくエネルギープランに沿って事業展開をしたとしても、これらの数値の削減目標を何%落とすという形には使用できず、目標設定には使用できないと思っております。あくまでも現状値ということでの資料です。続きまして、27ページから29ページです。基本方針と施策目標の修正ですが、前回、特に名張らしさという部分が出されていないというご意見もいただきましたことから、名張らしさ、地域資源であったりまちづくりであったり、協働、低炭素、省エネ、循環といった言葉を盛り込んだ形で、基本方針を修正し、それに伴い、28ページの施策目標も修正させていただき、差し替えをしていただこうと想定しております。それから、30ページから37ページ、施策の展開ということで、基本的には大きくは変わっていませんが、大きく意見として出されておりましたのが、ロードマップが書かれていない、見えないということでしたので、ロードマップを追加、矢印線を引いて、いつから取り組むという形のものを挿入させていただくと同時に、先ほど申し上げましたこの基本方針、施策目標にあわせる形で、施策の展開を組み換えました。1つには、今まで施策の展開は4つの柱に分けて作成をしていましたが、今回は3つの柱で、『環境にやさしい自然エネルギーへの転換』、『低炭素・省エネルギー型都市への転換』、『循環型社会への転換』という形の施策目標に合った事業を取りまとめて、構成を替えたので、差し替えをしていただこうと考えております。そして、『変更・修正箇所』の調書の裏面ですが、35ページに新規として1つ事業の追加をしています。『エコピブル創出の取組』です。これは議会のほうからもご意見をいただいた部分で、環境教育の推進の過程においては、こういった事業への取組も必要ではないかということで、『エコピブル創出の取組』を追記しました。そして、36ページから37ページで、庁内から意見が出されておりましたバイオスタウン構想に基づく『木質バイオマスの利用促進』を挿入、それから37ページには、廃棄物の減量化や資源化は、CO<sub>2</sub>削減等、地球温暖化対策にもつながる重要な取組であり、廃棄物処理やリサイクル計画に合わせた新たなエネルギー源としての活用について引き続き研究していくことも大事なことであるというご意見が出されておりましたので、その他のエネルギー活用の調査研究という部分も挿入させていただいたところです。そして、38ページから40ページで、『計画の推進に向けて』ということで、重点的な取組を旧の計画でもまとめてございましたが、その中には、『新エネルギーの導入拡大プラン』ということで、『家庭や事業所への太陽光発電システムの導入促進』、『公共施設への太陽光発電システムの導入促進』、『太陽光発電システムに係る公共施設屋根貸し事業の推進』、それから39ページの『大規模太陽光発電事業の誘致』、『小水力発電の導入促進』、そして『クリーンエネルギー自動車及び充電スタンドの普及促進』、そこまでは、重点目標、施策として位置づけておりましたが、ここに新たに40ページの部分で、省エネルギーに係わっても推進プランに2つ事業を追記しまして、省エネに取り組んでいくことも重点施策、重点事業として挿入しました。そして、41ページにつきましては、計画の進行管理について、前は大きく概念図のようなものを貼り付けていましたが、簡略化し文章だけにしました。そして、最後に42ページから43ページ、ここが1番大きなポイントとなるところで、CO<sub>2</sub>の削減目標は設定はできないが、できない代わりにいろいろな事業を展開することによって、どれだけの効果を生み出すかをまとめました。新エネルギーの導入目標、29年度までにこれだけの事業を展開することによって、どれだけの電気を生み出し、そして、化石燃料の代替効果として原油換算でこれだけ削減でき、家庭3千世帯くらいの電気量を生み出し、その温室効果ガスがどれだけ削減できるかをまとめ挿入させていただきたく、変更の提案をさせていただいてご審議いただきたいと思っております。簡単ですが資料はこのようにまとめてさせていただきます。

た。

会長

ありがとうございました。これから時間をかけて皆さんからのご意見もいただきたいと思っております。まず、タイトル、それから本旨、キャッチなどありますが、皆さんに意見に入ってください前に、私のほうから1点だけ追加をお願いしたいことがあります。マイナーな部分ですが、新の4ページ、『計画の位置づけ』のところで、国と県の部分で、国については今現在はこれで網羅している。三重県が足りない。タイトルがエネルギーアクションとなったとはいえ、ここに係わっているものは、温暖化に関するものなどで三重県はすごく大きなことを2つやりました。田中委員も一緒にやっていたことだが、1つが、三重県地球温暖化防止実行計画で先ほどおっしゃられた2020年までに、2005年比で20%の二酸化炭素削減をするという根拠がここにあり、これは平成24年度策定でした。順番としては、温暖化実行計画が先で、エネルギービジョンが後ですが、順番にはこだわらず今のままでいくならば、三重県新エネルギービジョン（平成24年度策定）、三重県地球温暖化防止実行計画（平成24年度策定）、もう1つ、これはものすごく大きい実績ですが、三重県地球温暖化防止条例をつくりました。これは、愛知県でもできないことを三重県は平成25年につくりました。これは法的拘束力のある大変なことをやっている。個別に事業者とかに負担をかけようというつもりは全くなく、今まで省エネ法とかいろんなことをやっていたものをもう1度整理をし、いらぬものは簡略化する、必要とするものはきちんと足してくださいということと、評価したのも公表しましょうという画期的な条例です。大きく三重県で行われた2つのものも入れないとまずいかと思いますので、入れていただきたいと思います。

これから皆さんいろんなご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員

修正後の資料、例えば1ページのはじめ、27ページにもあるが、『自然とエネルギーとコミュニティ』という言葉、『自然とエネルギーと循環』という言葉が出てきます。自然とエネルギーは共通ですが、コミュニティ、循環という部分が、どのように噛み合うのかわかりにくいと思います。表紙の図もそうですが、この辺りを整理した方がいいと思います。それから新しい資料の27ページを見ると、2の基本方針の自然の中に地域資源という言葉があるが、地域資源というのは自然だけじゃなくお金であるとか、人、文化などその地域の特徴みたいなものを総合的に指していると思いますので、この中に資源と入れるのは抵抗があるような気がします。それから、前の資料の中にもあり今回の資料にもありますが、蓄電、蓄エネルギー、ということについても謳われています。自然エネルギーを生かしていくためには、そういった蓄エネルギーは非常に重要なところだと思いますが、その中で、名張市の特徴であるとか、或いは災害に強い町、そういったものを活かしていくという視点に立ったとき、例えばの話だが、名張市には新神戸電機さんがバッテリーをつくっている。大きな設備の蓄電器もつくっておられる。エネルギー、自然エネルギーの不安定な変動というものをそういった蓄電器で平準化していくといった機能を持った設備も作っておられるので、例えばそういったものを名張市独自として活かしていただきたいということであれば、名張市の特徴というものが生きてくるのではないかと思います。それから先ほど会長がおっしゃっていただいたのですが、三重県の新しい条例の中にはイベント開催時の公共交通機関の利用について条項の中に謳っています。今回のお示しいただいたプランの中にも公共交通機関の利用促進とか自動車の利用の抑制というものは謳っているが、イベント開催時という言葉がないので、その辺りが欲しいと思います。それから、新しい資料の36ページ、木質バイオマスの利用促進と謳われているが、37ページのスケジュール表では、それがペレットストーブの普及促進という言葉に置き換わっているので、市民の方が見たときに、これは同じものなのかという感覚も生じるとと思いますので、

言葉を合わせた方がいいと思います。それから新しい資料の42、43ページで新規追加していただいた資料ですが、(1)の29年度の導入目標の表については、現状の24年度の実績に29年度までに新しく行われる施策を加えた形で導入目標として数字、現状プラス増加分という形で挙げられていると思うが、(2)(3)については、増加分のみの記載になっていると思う。(3)には、化石燃料の代替効果(増加分)と書いてあるが、(2)には設定データの増加分という記載がないので(1)(2)(3)の表示が把握しにくい。こういった形態で載っているのか解析をしないとわかりません。それから全体を通じての話ですが、自然エネルギーとか、再生可能エネルギー、新エネルギー、グリーンエネルギー、自然エネルギー、それからクリーンエネルギーという新しいエネルギーを総称して使われてる言葉がいっぱい出てきます。そのあたりの統一がとれていないと思います。理想郷プランの中では新エネルギーという言葉しか出てきていないので、その辺の整合を図った方がいいと思います。それからもう一つ、全体を通じての話ですが、何々プランとか、何々計画、何々プログラムといった言葉が出てきますが、それをフルネームできちんと正式名称で書いているところと、省略して書いているところ、中途半端なところがあり、例えば省略するのであれば、最初に以下何々という形で統一したほうがわかりやすいと思います。

会長

本当にありがとうございます。これだけ一所懸命読んでいただく委員がいるということは本当に嬉しいことですし、どの指摘もおっしゃる通りです。整理をしながら完成させていきたいと思いますので、またどんどん意見をだしていただければと思います。

委員

前回から見て、全体的にはきめ細かくこれでいいかと思います。新資料の16ページの表で、今会長からお話があったように、三重県は2005年を基準に2020年に20%削減という軸できているが、1990年の数値は地球温暖化対策地方公共団体実行計画策定支援サイトからとられたという話である。グラフが書いてあるが、1990年から2007年の間には時間が流れているわけで、生活と共にCO<sub>2</sub>の排出量も少しずつ増えてきていて、どうも2007年をピークに下がってきている。きちんと読めばわかるのですが、一挙に増えているように見えて、なぜ2007年こんなに増えたのかという感覚にならないか。グラフの書き方で、年代が過ぎているということを示すため、1990年と2007年の間に線を入れるなどしてはどうか。単純に見たら、2007年名張市に何かあったのか、急に人口が増えたのか、工業が増えたのかと誤解を招くというのが1点目です。それと私なりに分析しまして、名張市における二酸化炭素排出量の推移について、今、16ページの表でご説明があったように、これを目標で、この数値を基準にしたいということをはっきりおっしゃられましたので、結構かと思います。ただ、2010年という一番直近のデータを見て、二酸化炭素排出量が59万3千トン-CO<sub>2</sub>で、新資料の43ページ、新エネルギーについて今ご説明あったように導入していき、温室効果ガスの削減効果として換算されているのが5千571トン-CO<sub>2</sub>、私なりに考えて2010年の排出量が59万3千トンなので約1%の削減となります。その資料のベースや正確かどうかは別にして、2010年から見て、これだけたいそうなことをやって1%の削減しかならないのかと分析しました。この1%でも大変なことであれば、後でまたご提案したいと思っていますが、市民と企業、それと行政、三位一体、全て巻き込んで名張市のCO<sub>2</sub>の低減のため、自然エネルギーなり、そういうことで新エネルギーを変えていこうとしているんで、三位一体で例えば市庁舎だけがこうやりなさい、ああやりますではなく、名張全体で統一の何かをして、例えば我が家で10%の目標を定めて、テレビのつけっぱなしをやめるとか、風呂に長い間1人入って1時間あけて2人入って、テレビの番組が終わってまた風呂を沸かして入るとか、

そういうことを考えると1%というのは、家庭でも可能であろうということで、何か後で、1つのご提案として出したいと思いますが、その数値の認識はこれでいいのかだけ聞かせていただきたい。これで合っているのですか。

事務局

これだけの公共施設、家庭、事業所へ新エネルギーを導入したことによって生み出せる、また削減できる効果というのは、一応計算上は1%です。

委員

10%と違うわけですね。

事務局

違います。数値的には間違いありません。

委員

私が間違っているかと思って確認しただけです。数値化されているのは非常にわかりやすいので、結構かと思えます。削減が難しいと言う事が反対に読み取れていいと思えます。

会長

ありがとうございました。本当にいろいろないい意見が出てきますが、皆さんいかがでしょうか。

委員

新資料の28ページで、名張市が未利用間伐材の木質バイオマス発電の燃料として活用推進を図るといっていますが、私も誤解していましたが、松阪の固形燃料のRDFの事業、今は松阪市としてやっている事業で、いろいろ問題があると新聞にも1月15日に載っています。それと名張市が今言った中で、間伐材について補助されています。よそは1m<sup>3</sup>あたり3,500円だが、名張市は1m<sup>3</sup>6,000円、ですから差額の2,500円を補助されていると最近の新聞、1月17日に載っていました。そういう意味でバイオマスいいのですが、薪ストーブにするペレットにする分とか、木材を供給して発電にする分とか、県がやっているRDFの関係で、バイオマスとごっちゃになっているかなと思っているんです。だからこれが名張市も補助金として付けられているんだと思うが、年に2回だけ日を決めて、間伐材を利用しようという。山林を持っている方については、間伐材を整備してメリットが出てくるんですが、補助金として。そこらはどういうふうに考えたらいいのかという疑問がありました。この2点です。

事務局

今おっしゃられた新聞の記事で、あくまでもバイオマスとの関係としての未利用間伐材の利用だということですので、ゴミの固形燃料とは別の次元のものです。年2回かどうかについては、今も地元へ間伐材の推進について説明に行ってくれている中で、バイオマス利用を図るということで、山から切り出して製材所まで持ち込んでいく運搬費用の支援を産業部のほうでとりかかっているところですが、具体的に詳細については私どもも把握しておりませんし、年に2回だけかどうかについても、今もって把握していません。

委員

ペレットはわかるのだが、松阪市が新しいバイオマス発電をつくられている、県のものとは別に。それで、いろいろ三市ともめているのですが、松阪市へ納める間伐材じゃないんですか。

事務局

そうです。山から切り出して伊賀市のマルタピアへ集結する。そのマルタピアから松阪のチップ加工場へ一旦納品して、そこでチップしたもの、別の業者がありますので、そこから発電所へまた再度行くということで、3段階方式、最終的には松阪の発電所、バイオマス発電のためのものとして使用すると。

委員

そういうことですね。

事務局

そういうことです。

委員

だから、それに対しては補助金を付けて間伐材やられるが、県と松阪とその周りの市がもめている状況で、大変な事業になっているのではないか。

事務局

私はそこまで聞かせてもらっておりません。

委員

こういうことも知っておいてもらったほうが。ペレットって今ナウいけど、石油とか灯油、ガスとかではなく、暖炉的にされる家庭も増えてきており、そういうのは間伐材を利用して、元々あった木を燃やしているんです。国もCO<sub>2</sub>ベースではゼロベースと考えていただきたらとなっている。だから非常にいいことで、要は石炭とか石油、ガスなど減らすということについてはいいと思います。

会長

ありがとうございました。皆さんから意見がまた出るとは思いますが、これまで出た意見、それから、一番大事な部分の1つだと思いますが、このアクションプランのネーミング、それからどういうふうにしてこれを実現していくのか、将来的に名張がどの方向に、どのように行くかというキャッチの部分が入手くかっちり噛み合わない、なかなか厳しいものがあるだろう。細かい用語の統一とか大変重要な部分であります。それは皆で見て、こうやっていくという形にするにしても、これに関しては修正がなかなか難しいので、ここで決めていけば、それで当面行くということを考えますと、ここで皆さんの知恵をお借りしてソフトランディングできるようにしたいと思っております。皆さん、本当にごもったもな意見でありまして、肝心の柱になる言葉があたりなかったり、突然出てきたり、それらを整理しようと、事務局をお願いしてこのように書かせていただきました。遠くにいる方はよく見えるかわからないですが、一緒に考えてみたいと。それで事務局に手伝っていただきたいんですが、委員の皆さんからの意見を拾い上げてつくっていききたいのでここに書かせていただきました。

まず、ここで一番大事なことは、やっぱりこの名張に住んでいる人々が、どういうふうの名張の未来に向けてやっていこうとするのかという部分で、『人』という言葉は大変重要だということで、出てきたんだろうと思っています。それとやっぱり名張はまだステキない『自然』がいっぱい残っているので、それもバランスを取れることを考え、入れた言葉だと思っています。そこに3番目のキーワードとして、『エネルギー』ということになるんですが、タイトルにもエネルギーアクションプランと言っている以上、エネルギーというキーワードもなくしてはならないと、たぶんそういうことで出てきている。それと、どの名張と言ったときに、とにかくスマートにいこうということで、『スマートシティ』ということになっている。このスマートという言葉には、本当にいろんな方がいろんなことを考えると思いますが、元々スマートグリッドという、私がアメリカに住んでいて、アメリカは金持ちのようで、発電会社が一番貧乏な国ですから、送電線とか、なかなか整備するお金がなくてよく停電します。先進国なのによくあります。確かスマートグリッドにして、電力も上手くスマートにやろうよという言葉があまりによかったために、スマートという言葉があちらこちらで使うようになりました。エネルギーだけでなく、生き方もスマートに、皆幸せもスマートにということで、『スマートシティなばり』ということになったんだろう。その下にサブタイトルみたいに、皆でやろう、皆でつくる、グリーンエネ

ルギー都市となっているんです。

ここで皆さんが、『エネルギー』も出ました、『スマートシティ』も出ました。その下に書いてあるものが『グリーンエネルギー都市』という、グリーンだから環境にいい、再生可能エネルギー、自然エネルギー、いろんなものが出ていますが、それは後で整理することにして、欲張ったものが全部入っているのです。私から見るとキーワードはせいぜい3つです。人は、どんなに賢い人でも4つ5つ6つ7つになったらこんがらがってしまうので、いい言葉というか、いい柱を、トライアングルが一番、三角形が一番バランスがいいんだそうで、あっても3つ。その部分を皆で上手く整理したいと思っていて、これが進んでいくためには、ここをきちんとしなければいけないんです。

さっきも出ました『自然』、いろいろバックグラウンドとしてあると。エネルギーたくさん使っては困るから、『低炭素』にしていくけれども、なぜかここに『省エネ』という、新しいエネルギーもつくる創エネもするけど、『省エネ』をちょっと意識高めてやりましょう。そして、先ほどの新神戸電機での蓄電池ということで、『創エネ』、エネルギーをつくりましょう、エネルギーを『蓄』、貯めましょう。

『省』、無駄をやめましょう。『創』、『蓄』、『省』ならいいが、この『低炭素社会』の中には全部これも本当は含まれているので、なんでここにまた『エネルギー』という言葉が、『スマートシティなばり』、またここにも『エネルギー』が、『エネルギー』がくどいほど出てきて、しかも省エネだけでいいと思われるようなものがある。そして『循環』というのはどういうことなのということですが、1回目も話をさせていただきましたが、名張市は今まで廃棄物に関してトップランナーだという実績とプライドを持っている、物事を循環させていくんだということが出てきてるんだらうなと思っております。だから決してこれは悪い言葉とか使えない言葉じゃなくて、必要な言葉だが、全体の比重から見たときに、これは一体どう考えたらいいんですかということがなかなか難しい。だから、この三角形から上がってくる『スマートシティなばり』を表すものが、いつも『エネルギー』、『省エネルギー』そういうものがないとわからないのかということを考えないといけない。

キャッチというものはシンプルなのが一番いいので、この下にでているのは余計な説明なんです。できればこの一行で勝負したいということなんです。ただ、この一行で勝負するのがあまりにも広くて、わかりにくいのでせめてこれだけはやるんだということがあるなら、使い方があるんだらうと思います。これをどうまとめていくのかということが落ち着けば、あと細かいところは丁寧に読んで、整合を取れば全然問題ないと思っています。是非とも力を貸していただきたい。最後に、カタカナが多すぎるような気がします。ただ、これを純粋な日本語にすると、また更に難しくなるが、カタカナは決して悪くないが、カタカナが並んでいることについて、皆さんのほうで違和感ないというならいいが、どうかということであれば、ここ、ここ、ここ(周りの3箇所『自然』『低炭素』『循環』)行って、最終的にここ(中央『スマートシティなばり』)行けば、スマートにいくと思いますので、どうかよろしくお願いたします。どう思われますか。

委員

これは、いいとか悪いとかではなくて私が思っていることですが、『スマートシティ』、ここは非常に大事な部分だとお考えなのでしょうか、ということをご間から感じています。なぜ急に『スマートシティ』なのって。これを使わないといけないのかと思ったりもしました。使うとどんないい影響があるのか、皆にわかりやすいのかということと、もう1つは、人と自然とエネルギーが調和したらスマートシティなのかと思ったりもしました。だからグリーンエネルギーとは自然エネルギーのことたぶん言っているのしょう。それだったら自然はいらないのではないのかと思ったりもしたが、やっぱり自然はいるのだらうと。そしたらエネルギーはどうか。『スマートシティ』を使うことによって、私たちが何か低

炭素社会を実際に構築していくときに、非常に役立つキャッチフレーズになるのだろうか。それとも何か違う言葉はないのかとこの間から思っているが、自分の中ではないです。

会長

ありがとうございました。話題の提供、どんどん出して下さい。

委員

グリーンエネルギーのグリーンというのは、先ほどおっしゃったように、ちょっとイメージが掴みにくく、やっぱり一般の人は、グリーンは緑というふうな想像をして、いわゆるバイオマスとか木質のようなもののエネルギーというものを想像するのではないかと思います。それ以外の太陽光そういうものまでにイメージが膨らまないのではないかというふうに。グリーンという言葉はちょっと使いたくないという気がします。

会長

どんどん出して下さい。

委員

先ほどの創エネ、蓄エネについては、先生のおっしゃる通り、やっぱり省エネというだけでそこを定義するのは無理があると思います。それからもう1つは、創エネという考え方、或いは蓄エネ、その考え方の基本の中に、エネルギーの地産地消という問題が含まれていると思いますので、この枠組みの中で、それをどう取り組むのかというのがよく見えません。ただ減らします、自然のエネルギーをできるだけ使うようにしましょうだけで、早く言えば入り口はあるけど出口がないという話です。そういう思いがしますので、その出口が『循環』ということなのかどうか市のご意見を聞きたいと思います。

会長

まずここで皆さんと考えるに当たって、提案をした事務局としてはどういう考えでこの3つができていいのか、もう1度説明していただければありがたいと思います。

事務局

そもそも施政方針の中で、『人と自然とエネルギー』という言葉で、調和するということの中でのスマートシティ構想を掲げた。だからこれは外せないキーワードということからスタートをしているわけです。そんな中で、先般ご意見いただいた、人というのは、スマートコミュニティとかスマートタウンとかスマートシティとかその地域でいる人そのものであるというふうに考えても、この真ん中のスマートシティなばりというのは地域そのもの、人そのものである。それらが調和するまちをつくるについては、自然が大事でしょうということも当然ありましたので、自然をまず取り組むということと、そして自ずとこれの目指すところが、低炭素社会だというのが究極のところがございますので、そこに当然そういう取組をしていく、そして、先般大分にご議論いただいた循環、ゴミの廃棄物の関係で、市民協働が非常に活発な都市でもあるし、リサイクルも進んでいるし、循環型が大いになされているというようなご意見もあったので、それらをリンクさせようという思いでこういう形の概念の形をつくりました。

会長

わかりました。そうしたら、私のほうで少し補足説明させていただきます。これだけ素晴らしいことを名張が考えたのかということをつぶしお分かりになると思います。つまりこの言葉（『低炭素』）というのは、素晴らしい言葉を拾っています。（かっこ『省エネ』）つけは別にして。かつて自民党のときでした。21世紀環境立国日本ということで、やっぱり環境と経済ビジネスは一緒にやっっていこうというところに、すごく海外でも高く評価された。私自身もよく拾ったなと思っている要素が、今説明があったように3つでした。『自然』、『低炭素』、『循環』です。ただ『自然』は自然だけじゃなく、『自然との

共生』、共に生きるということが後ろに付くのですが、要素だけ入れれば、『自然』と『低炭素』と『循環』。これがどう関係があるのと思うのですが、低炭素社会というのは、先ほどの三重県は温暖化条例までつくったり、いろいろやっている裏には、社会というのはやっぱり環境オンリーでもなく、経済オンリーでもなく、そこに人とのバランスをとれる究極なものとして、低炭素社会という中にいろんなものが入っているんです。クリーンイノベーションとライフイノベーションとって、人間の福祉・健康も全部入っています。だから、これは、奥が深いので、低炭素にあまりに深く入るとあれだから、たぶんエネルギーを考えましょうという意図があったと思います。それはそれで、皆が考えてくれればいいので、あえてここに、『省エネ』だけやるのは、かえってその趣旨を損なうものなので。それと『循環』ですが、名張は廃棄物に対しては完璧じゃないですか。まわしてるじゃないですか。減らしてるじゃないですか。そういうところで、この循環型というのは名張のためにあるような言葉のように私は思います。また1月8日の伊勢新聞には、30日から小型家電製品のリサイクルをやるんだとって、これもいち早くやるんだと。1回目もたくさん話が出たように、名張は廃棄物が世界1だということと同じで、これ(『循環』)使ってもらってもいいかなと思ってるんです。だから、ごみは悪者じゃなくて、あらゆるところに関わるものなので、それから教育も意識も。こう(『自然』) こう(『低炭素』) この3つ(『循環』)は本当に事務局素晴らしい。よくとってくれたと思っています。今若干、民主党かつての問題でこれに関するもう1つ押しがないようには思うが、新経済成長、それから温暖化は、生物多様性とかあらゆるものにおいても、まだ21世紀環境立国日本っていうのは残っていますので、これを今名張が早く使ったほうが、私はいいと思います。バランスがいいのは、国がつくっていたものは、『低炭素』左、『循環型』右、『自然との共生』は下でした。それは自然がベースですが、いいじゃないですか。こう(『自然』) こう(『低炭素』) こう(『循環』) もしひっくり返したいならひっくり返しても結構だと思いますが、そこに、スマートにいこうという形で『スマートシティなばり』。これは『かっこ(エネルギー)』いらなないと思います。この中で、『エネルギーアクション』だということは既にも書いてるわけだから、別にここにいちいち書かなくてもいいのではないかと考えています。シンプルに概念図だけ持って行って、そこに、見る人が自分のいろんな立場やいろんなものを入れてやれるような余地をつくったほうがいいと思うので、あまりエネルギーだけとか、省エネだけとか、そういうことは外したほうが、絵として非常にうまくいくのではないかと思いました。もしこれが白黒ではなく、カラーであれば、グリーン系とか、いろんな色を使ってやってみて、非常にスマートにいくようだったら、少し贅沢かもしれないが、ここだけカラー刷りとか考えるのもいいかもしれません。皆様どう思うかこれから伺いたいんですが、要素から見たときに、今まで最重要のところ、総合計画もそうですし、人と自然というものが常に名張は謳っていたんだということであれば、私たちとしては、それを尊重していきたいということも正直にあるということも考えてみると、この要素とこの要素とこことも全然違和感なく当てはまるので、いいのかなと。ここで『低炭素』のところ、エネルギーというのは皆がわかっていることですので、別にここでエネルギーに関してやってもやってもいいんだとすれば、キャッチでエネルギーがあっても悪くはないかなと。キーワードが全部出ました。『調和』、バランス、ハーモナイズとって、外国人は、ハーモナイズ、ハーモニーとってものすごく好きなんです、これは日本語で上手く『調和』で入っているならいいと。そして、『スマートシティ』、たくさん話をしてほしいので、スマートシティは生かしたいなと思うんですね、今三重県やいろんなところで、スマートコミュニティ、スマートシティいっぱい使っているが、こういう1つのアクションプランとかにきちんと前後左右ということを考えて謳っているのはまだないです。だから、今名張が使えるチャンスだと言っていたので、とりあえず、スマートシティはちょっと堅い言葉で、しかもすぐここに『なばり』というものが出てきているので、これは

ワンセットで考えるのも1つかなとは思いました。そして、これ(グリーン)がまずいです。なぜならば、スマートシティが考えている低炭素社会のエネルギーというものは、クリーンだけではないんです。エネルギーは新エネ、先ほど質問出ました再生可能エネもいろんなところで若干、地熱をどうするかとか、あっちいたりこっちいたりしますが、さすがに名張は地熱、温泉とか九州とかとも違うので、言葉使いが非常に難しいこともわかるが、グリーンにこだわる気持ちもわかるが、名張市民ぐらいのレベルだったら、グリーンと言わなくても、たぶん自然をなんとか、上手くエネルギー源も使ってなんとかしたいということは皆かなりの方がわかっているのではないかと思っているので、ここにあってくどいほど書かなくてもいいのではないかと。そして、スマートシティなばりで、既に都市というのもできましたし、人と一緒につくるんだというところに、『みんなで創る』ということ、1人じゃない、オール名張でやろうということここに含んでいるので、極端な話、これ(『みんなで創るグリーンエネルギー都市』)を外したときにわかるのかということ、この図を見て繋がれば、もう落ち着くのかなと思いました。これが私からの提案ですが、これに対して皆さんから反論もあるかもしれませんが、そうだそうだということがあるかもしれませんが、更にこの言葉を入れたらどうかというのがあると思いますが、皆さんいかがでしょうか。また意見をいただきたいと思えます。

委員

直感的に見て、文書には『人と自然とエネルギー』となっている。普通なら、それを表わすのは、人、自然、エネルギーと出て、真ん中が『スマートシティなばり』という意味で、一見はそう思いませんか。普通だったら、『低炭素』のところを『人』とします、そして『循環』のところを『エネルギー』です。普通落ち着くのはそのイメージで、それを調和したのが『スマートシティなばり』というイメージです。もし上の文書をそのまま図に表わすとしたら。

会長

『循環』が『エネルギー』になると。

委員

そうではなく、その文面でいくと、人と自然とエネルギーそれが相まって、スマートシティなばりですと文面で言いながら下の図では。

会長

ここに人がいるから、人が住んでいる名張になるわけです。ここに例えば、人を入れて、ここに例えばエネルギーがいくんだとしたら、それならここにどういう要素が入ってきて、どういう要素がどうなってるのかということなんですが、今おっしゃられてるのは、ここに人を入れるという意見でしたか。

委員

いやそうではなく。

委員

文面と図が合っていないという話です。

委員

この文章で、スマートシティなばりを表わすのなら、私の頭なら、人、自然、エネルギーという3つに普通はなるのではないですかと。あえてここで文言を入れるのであれば、自然の中でも協調するもの。例えば人であれば、みんなでやるとかいう協調するもの。自然っていうのであれば、なばりの自然に合致したようなタイトルを入れる。例えば、野球部とサッカー部とバレーボール部で頑張ろうって言ったら、頑張ろうと言って、バレー、野球、サッカーって書くのではないですかという視覚的イメージを言ったわけで、この整合を無理にこじつけるのは非常に難しいですね、という私の意見です。

会長

はい。それはよくわかりました。ここ『人』というところの部分をもどのように考えるかによって、答えは出てくると思います。人がいたから、温暖化も言ってみれば自然的なものがあるにしても、人がたくさんものを使っているから、廃棄問題もそうだが、出てきているいろんなことを考えたときに、例えばここで言ってる人というものは、本当にたくさんものを含んでいるので、ここでたまたま名張が得意（循環）、これ（低炭素）まだ不得意かもしれないが、得意としているものを取り入れながらやっていくという発想で考えるのなら、ここでいくらでも想像力が働かせられるのではないかと見ているんです。そして、そこを表すものが、何とかシティなばりですというように集約ができるというところまで来てるのなら、ここで例えば何何々を当てはめることを考えるんだとすると、人というところは、このように、3分の1、3分の1、3分の1では、表現できない。全てが人に繋がっていくわけだから、と思っています。ここに、無理矢理はめると大変なのです。名張市の場合、無理をせずにはまってしまう部分が見えてきたのです。だから、これをどのように、例えば、ここに何が、ここに何が、ここに何かというならば、サブタイトルを入れることによって、この3つの要素とこのものがわかるんだという形になるかもしれません。ならば、この下の絵、それとサブタイトルのところ、2列でだめだということであれば、1列のところに入れるということもあろうかと思いますが、意見がある方は、出していただければ、ありがたいのですが、どうでしょう。

委員

前回いただいたこの図、これは正にその表題と一緒に合っているのではないのでしょうか。いろんな取り方をするんで、単純なこの前の図が、私は一番いいと思う。

会長

前回の図で、私のほうで事務局に問いを1つしました。自然とエネルギーとコミュニティ、このスケールの違い、バージョンの違いを三角形でやっていくのはものすごく難しい。例えば一番究極なコミュニティ或いはシティとして考えるのだったら、恐らく皆が集まるここでしょう。ここが例えば名張ですとなれば、それはそれでいいにしても、自然とエネルギーは交わったら何になりますか。例えば自然とコミュニティが交わったら何になりますか。エネルギーとコミュニティが交わったら何になりますか。例えばこれが名張だとした場合、これはどうなるんですかと、非常に難しかったんです。色の三原色とか光の三原色はいろんな色を出してありがたいですが、こういった場合、なかなか難しい。しかもこれは総合計画ではないということから考えてみると、ひっばってくるようなものは限られているんです。特にエネルギーのような大きなテーマの中で考えたときに、持ってくる虹色がなかなか浮かんでこなかったし、難しかったんです。だから、若干ばらした形で、3つの柱をたてて、真ん中に集約できるようなものにしたらどうかということがあって、このようになってはいるんですが、もし皆さんで、こちら（前回の図）が上手くいきそうだということであれば、こういう表現の仕方も非常にスマートなやり方だと思います。そしてこのコミュニティというのは何かということになるんですが、名張をいくつかの地域で分けたコミュニティ、いわゆる地域という意味のコミュニティなのか、名張市ということ考えるコミュニティなのか、これもなかなか難しい部分がある。コミュニティは対象地域ではあるけれども、具体的なゴールにはなかなか難しい部分がある。次元が違うので。だから、これも例えばここに、例えば何か廃棄物だとか、何か具体的に表すようなものがあるなら、ここで、名張という形になるけれども、廃棄物については違うアクションプランに既になっているので、今さらこれをまた持ってくるのはどうかということもありました。だからいろんな背景の複雑なものの中から、出来ているものも生かしていくんだとすれば、このぐらいのものかなということで、話をした経緯がありました。もしこれ

(前の図)だとすれば、ここをもう少し完成形に近いものに、意見を出していただければと思いますが、どうでしょう。

副会長

左のほう(前回の図)は、いわゆる3すくみで、関わっているところの問題を出す。そして、右(今回の図)のほうはとにかくキーワードが3つで、それを元に1つのものを作りましょう。という形になっているので、キーワードもそうだが、やはりどちらの図をつくるかによっても目指すところが変わってくると思うので、今、朴会長もおっしゃられたように、やはり左のほうは、関連性を正しく押さえなければいけないので、名張の場合は、そういったものが難しいということで、とにかくキーワードを3つ挙げて、それを関連させて、上のタイトルに調和させて目指すものをしましょうと出した形だと思うんですが、ちょうど文面が出来て、区別が出来れば左のほうもいって、難しいならば右でも、そのどちらかした形の中で今度はキーワードをどうするかということだと思います。先ほどから出てる最初の3つで、それを右にしたものですから、コミュニティの部分は今『自然』と書かれてますが、この自然は実は自然ではなくて、修正したものにもかかっている地域資源、要は人と自然を含めた自然でイメージされているのでは。そこに2つしかなくなってしまったので『循環』を、先ほど人と自然とエネルギー3つという形でしたが、捉え方としては、人と自然がワンセット、それとエネルギー、実は3つあるけども2つ。元々の3つというイメージがなくなってしまう。もしそうするならば、仮に自然を修正していただいた中で、地域資源というような形に置き換えるっていう形に。

委員

それがいい。自然のところに地域資源と書いたほうがいい。下のほうに。自然というのは、景色がよくて山があってと思うが、そうではない。山があって人が加えて、きちんと間伐材切って、きれいな山にしないと再生できないのだから、人が自然をつくり上げていくものであるという意味でわかりました。それがわかりやすい。

会長

ただ、地域資源とは何というのは答えられません。これを説明できる人、世界でもいないと思います。答えが100あれば100全部正解だからです。

委員

意味はわかったので、タイトルは自然でもいいですけど。

会長

エネルギーの地産地消をここであえて使わない理由が何なのか考えて下さい。地域資源は言葉が良すぎてだめです。これは私の長年の経験でわかっております。言葉が良すぎるものは要注意であり、地域資源を間違えて使うと、エネルギーの地産地消に全て持って行ってしまうと、これ途中でたぶんこけてしまう。そういうことを避けたいから、ふわっとなっていて申し訳ないが、『自然』という中にいろんなものを想像して下さい、という形に委ねたわけなんです。

委員

それはそれで結構です。

会長

アクションプランのその次、例えば1年度2年度3年度まで短期的にはこれをやる、中期的にはこれをやるというときには、どんどん使ってほしいのですが、これは何年ぐらいのスパンで考えるのかわからないが、ある意味では当面使えるかもしれないし、これがまたもっといい適切な何かに時代の流れとともになるのだったらそのとき、変えたらいいですよと言うかもしれないが、この地域資源とは何かとい

うことです。地域資源って何だということを考えるときに、ここでどういうことが想像できますか。

委員

人とかも想像できます。だからその言葉は使わなくていいです。お金とか全部入ったら。

委員

自然っていう概念が飛んでしまう。

委員

もう使わないって決めて、会長がおっしゃっているんだから、それでいいではないか。

委員

そういう意味ではなくて、意見交換しているんだから。

会長

いい言葉です。いい言葉なんです。

委員

いろんなことがあるから、考えながら『自然』という言葉で私は結構です。ただ、漠然と見たときに、そこに書いているように、人と自然とだったら、普通なら、この名張の山があり、川があり、そういう自然というイメージだから、概念的にはなるほど地域資源だということで、我々は、詳しい方がいるからわかるのであって、でも一般の人が見たら、山あり川あり、綺麗な街だ、雪が降っている、とこんなイメージです。だからそういうことも踏まえて市民に考えてもらう自然というので、素直でいいのではないのでしょうか。

会長

例えば、もう1つ使い方はあります。これ（公財）を使うならばわかります。しかしこれは大変、危険します。できれば自然という普遍的なところの中に、いろんなものを入れて。資源になってくると、経済が必ず出てきます。そうすると、自然は自然でいられなくなってしまう可能性が出てきます。例えば、間伐材を何とかするのはいい、ペレットもいいのですが、ペレットになる木材などがある程度供給と需要のバランスが合う形になれば、それがうまくいって、森林資源をどんどん再生するようなところにいけばいいが、世の中そんなに上手くいかずに大変なことは山ほどあり、中途半端に出ていっているものが一番地域に逆にダメージを与えるのをいっぱい見ているので、本当にお願いなんですが、これはこの中に概念として入れて結構なんです、それくらいに留めていただくとありがたいんですが、よろしいでしょうか。

委員

いいです。別にそんなこだわっていません。

会長

文章の中の言葉はどんどん使っていいと思います。

委員

私の頭の中でイメージできたので、それで結構です。

副会長

この右（今回の図）のほうですと、言葉をどうするかといったときに、低炭素もそうですし、循環もそうですし、その言葉が持つ裏の意味をある程度知って、議論したうえで、それを反映した形で中身の文章を組み立てているという形だと、逆に言うと前回に比べると修正案、名張らしさが出ているんですが、言葉の持たせる意味がばらばらなので、わかりづらい。自然と人というのであれば、それと一緒に使っているものもあるし、低炭素も省エネ、創エネ、蓄エネいろんな形で、2つを入れているものもあ

れば1つだけだったりと混在しているので、それを整理して、且つここで議論して、適切な名張らしいキーワードを入れられればなと思うんです。

委員

人と自然とと言っているが、人というのをここに定義されたのはどういう思いで、要するにここでこの活動をするのは人ですよという意味ですか。

事務局

名張市全体です。

委員

市民でしょう。市民とか企業人とか。

事務局

はい。名張市そのものです。

事務局

元々、スマートシティ、先生おっしゃっていただいたように、私どもとしては、スマートグリッドという賢いという話から始まって、賢い効率的な街を、コミュニティをつくろうということで、それはスマートグリッドのようなエネルギー部門だけでなく、本当に賢い街をつくっていこうということで、それは福祉の部門であったり、医療の部門であったり、本当に質の高い名張を、市民の暮らし、市民の幸せを目指していこうという大前提の中で組み立ててきた言葉だと私どもは思っています。そういった中では名張の中でやっぱり市民力、すなわち言い換えると、それは具体的に私どもではコミュニティの力ということで、コミュニティ、組織力で今15地域の中で、市民の力の市民力、人の力、そして自然という力を、自然を、自然に囲まれた私どもの宝、そういったことも活用した中で、スマートグリッドの言葉から来て、エネルギーを活用して、調和した幸せな名張市を目指していこうという考え方が大前提にあって、先生のご指導もあって、スマートシティを目指そうという大前提、市長も施政方針に掲げてますが、その中で、今回は一番最初はグリーンエネルギービジョンと、グリーンエネルギーに特化した形のプランになっていました。そして、今もグリーンエネルギーに特化したプランということで、副題として先ほど下にあったタイトルを付けてある。一番上は、あくまでもスマートシティの大きな目指す方向性だと。そして、エネルギーの街として、エネルギープランとしては、下に副題を付けさせていただいたということです。その中で、当初、お示しさせてもらったエネルギープランはエネルギーに特化しすぎたもの、太陽光とか、新エネルギーの創造に特化したものになっていまして、今ご指導いただいたように、循環、それによってどういう効果があるのか、低炭素の社会を目指そうとか、循環型の社会を目指そうとか、そういったところの中で、今この3つをキーワードとして一旦は挙げさせていただいたというのが、私どもの考え方です。

委員

まずこの絵のスマートシティなばりという考え方を真ん中にもってくると大変いい。要するに何を指すのかがよく見えるのでいいと思います。それから、人の概念をお聞きした意味は、これはこの図とは直接関係しないが、今の計画全体を見ても、産業界、企業、その関わりがどこにも出てこない。全くそこが抜け落ちています。これは市民と共に、産業界も特にここに冒頭のほうで、例えば運輸業でのCO2の排出が多いとかいろいろ謳っているのだから、産業界がこの全体の計画の中にどう関わるのか、人の中に産業界という概念は入っているのかなと思って聞いたわけですが。是非市民だけでなく、産業界も含めた人という概念だという観点でものを組み立ててほしいと思いました。

会長

そのことについて私も言おうと思ったのが、ここであえて市民と絶対書かないのは、家に帰ったら皆市民なのに、普通市民と言ったら、市民しか考えてないんです。三位一体と言いながらも、どちらかと言うとしわ寄せがくるのが市民だけじゃないかと思われたくないので、人としたのはその理由です。産業界、それから行政もそうだが、市民、その市民という中には、ここにずっと住んでいる人もいるが、昼間だけ仕事して住民票は別のところにある人は、家は名張じゃないから適当にしてもいいというのは絶対だめです。滞在者であろうと訪問者であろうと、仕事だけする人であろうと、名張市に来ている以上、人としてカウントとするということで、人という言葉にこだわりました。それが例えば市民・事業者・行政・滞在者・・・全部書くわけにいかなかったんで、このようになりました。ただ、そこが書ききれていない。27ページ見てください。ページがオーバーするにしてもきちんと書いていただく。ディスカッションではいろんなものが出てくるが、言葉だけでは説明がないと読み取れないのではないかな。だから、ここで言っている人とは何だ、自然とはさっき言った地域資源も含める、では何でここでエネルギーなのか、と悩む姿がわかります。このキャッチなどをきちんと書いていただくことによって、次に繋がって、できれば来年再来年、安部さんのほうからエネルギー政策のことが出てきたときに、一気にいきましょうという形で、それを見込んでまず表明しないと、いい言葉は皆使ってしまうので、『スマートシティなばり』はワンセットで使いたいので、早くこれを宣言したいというのもあり、このようになりました。

では最後にどうでしょう。サブタイトル付けますか。

委員

サブタイトルはすっきりしたほうがいいということをおっしゃっていただいたが、上との連動性があるので、サブタイトルより1つ何か、言葉は思い浮かびませんが、例えば名張のこれからの取組というのを横に添えて、この絵を入れるとかすれば、もう少し繋がりが出るとは思っているんですが。

会長

わかりました。ここは本当にそぎ落としたエッセンスだけ書いているので、ここで、キャッチはシンプルな形にして、図表もこのようにしているが、それにきちんとした説明ができるようなフルバージョンと、ここに 印でもしてこういうことを表しているものだというのを後ろにでも付けるような形にすれば、ここで我々が考えた『人』というのはこうだ。『自然』というものはこうだ。『エネルギー』というものはこうだ。『スマートシティなばり』というものはこうだ、という形がわかりやすくできる工夫を1つ考えていただければ、なるほどと思われるのではないかと思います。そして、本冊の27ページを見ればなるほどとわかる、そこに勝負をかけていただければと思います。それとやっぱり事業者、これはいろいろ難しいところがあると思うが、温暖化実行計画もそうだし、条例もそうだった。下手にすると骨抜きになっていたかもしれないものをなんとか残したのは、やっぱりここで人ということをおのうに位置づけ、事業者も行政も市民に戻ったときの市民もみんなで作るんだとしているので、どちらかに事業者のことを書いていただきたいと思っておりますので、これを先に検討していただけますか。一番参考になる県の条例と実行計画をもう少し読んでいただくと、事業者とかの取組を書いております。それは、どの市町にも応用できます。何%減らせとならなくても、責任は皆で担っていくという原則で、平等だが差異のある責任を担ってよという言葉で使えば問題はないです。これはよく国連も使っています。共通だが差異のある役割を果たせとなってくるとできるんです。またそのカードを使いながら、細かいパーセンテージとかできないと思うが、責任を担う部分はあるということを出していただければいいと思います。全体的にはよろしいでしょうか。

委員

いいです。

会長

ありがとうございます。それでは今後のスケジュールはどのようになりますか。細かい文言整理、それから事業者の役割、それはそんなに数字ばかり入れなくても大丈夫です。もしもう1回審議会があるならそれでいいですし、そうではなく、会長と副会長と事務局の責任でやってということであればそれでもいいですが、時間的な日程は今後どのようになりますか。

事務局

予定的には2月中に庁内協議だけ確定して、そして3月議会の中で説明を申し上げたい。ですので、委員さんからたくさんいただいた言葉の整合の部分については事務的なこととして整理をさせていただきますが、今の大きなポイントの部分については、お願いできることなら会長さんと相談の中で、つくり上げさせていただければと思っております。

会長

では、できるだけ早くやって皆さんにながし、そこで意見をいただいて、収集がつかないようだったら緊急会合を夜中でもやる。それでいいんのではないかというコンセンサスが得られるということであれば、それでやっていくと。皆さんどうでしょう。

委員

やっぱり一応、修正したものをもう1回集まってこれでいきましょうというのを合意しておきたいです。

会長

それも1つの考え方です。

委員

今お話した趣旨で、言葉の整合とかは、会長、副会長、事務局に任せていいが、少なくともこの本冊1冊綴じたものでこれになりましたというものを、我々も委員である以上。それで議会にかけていただいたらありがたいです。

会長

はい。それでは、今日が21日だから1月31日までにつくってください。そして2月の頭に1回会議やりましょうか。それで間に合いますね。

事務局

はい。

会長

そのときはこれを見たりあれを見たりではなく、1冊全部まとまったもので1回見たい。2月の頭に1回会合やって、それでマイナーなところは委ねていただいて。そうすると今のところ間に合いますね。

事務局

はい。

会長

ではあと10日もあればなんとかなります。その間にいろんな相談とか受けますので、2月の頭、1回皆さん時間を作っていただけますか。

そこで予算はありますか。予算なければボランティアでいいです。

2月のできるだけ早い段階でやっていただく、私たち必死で読んできます。2月の頭大丈夫ですか。

事務局

大丈夫です。今日に、できましたら日だけ決めていただけるとありがたいですが。

会長

では、3日の月曜日の午後2時、ダメだと言う方いらっしゃいますか。

委員

とりあえず2月3日、午後2時からにさせていただいて、出席できない方は、事前に送っていただいて、コメントを付けるという形をとったらどうでしょう。

事務局

メールでまた送らせていただきます。

委員

本編はこれで大筋いいと思うんですが、今後のことを考えて1つ提案したいと先ほど言ったのは、新エネルギーと言うならば、バイオマス発電とか水力とかいって換算しているが、たかが1%、されど1%だけど、市民なり企業なり、もちろん、市職員も含めてですが、企業も、企業市民という言葉があって、企業市民ということを経営人は知っているはずですが、だから、市民でいろいろ誤解があるかもしれないが、企業も当然会社として、企業として、ある程度こういうことに賛同するか、前向きにしていけないといけないところで、我々市民、意外なもので放っておいたら楽なほうに走る。これとは別に提案として、例えば、何か柔らかい言葉があって、例えばエコ5パーセント運動、エコファイブ運動とか、それはなぜか言うと、ゴミゼロ運動って打ち上げているんです名張が。そのとき誰しもゴミがゼロになると思ってないんです。絶対ならないが、これが通るんです。トーンがいいのです。ゼロにしようという、10パーセント減らそうというのではなく、ゼロにしようという目的が通りがいいのです。だから、ゴミゼロプログラムはぐんと進むのです。ということは、市民のほうにもやんわりとエコファイブ運動とか、ファイブの5パーセントくらい削減する。要は無駄な電力なり、無駄なガスなり、それに先ほど出てきたそういうことを市民に柔らかい意味でお手伝い、これの施策なんて、普通の家に太陽光つけるって、これからお年寄りが増えるところに、年間200件ずつやりましようと言ったって。それであれば、新築業界に話しかけるとか、そういう機会しか太陽光、家庭になかなか難しいと思うんです。それより、家庭では節電をするほうが、電気代も安くガス代も安くなるかもしれない。将来で結構です。ここに謳わなくて結構です。

会長

これはおっしゃる通りで、名張25パーセント、チャレンジ25とかみたいなかんじで、どんどん出てくるでしょう。また、1つのところに全部盛り込むというようなことは散漫になる可能性はあります。

委員

だから、これはこれでいいのです。プランですから。

会長

エッセンスが入って、実際にこうやっていくという実行計画といったところでは、今の意見は素晴らしいものです。

委員

広報に載せるとかそういう運動をやられたらどうかと、ご提案します。

委員

少ししつこいようですけど、27ページ、『こうしたことから』というところで、『これまでの取組に加え「自然」「エネルギー」「コミュニティ」の調和を基本とした政策を一層推進することにより』とい

うことでこの3つがここに挙がっています。それで、さっき私がその図のことで言ったのは、これをメインでやっていこうということなら、この絵の中にこれを入れないとダメと違うのでは。

会長

これは全部精査します。これは言わないでおこうと思ったんですけど、どうしても言わざるを得ないのでですね。ちょっとモザイクが残っています。

委員

これ変えるのだったらいいが。

会長

変えないとダメです。これは事務局のモザイクがまだ残っています。いろんなところからのモザイクがまだ残っているので、それを是非とも名張の言葉に変えて考えていただきたい。もう1度冷静に読んでいただきたいと思っています。最初書くときには、いろんなものを持ってきてモザイクするのはいいのだが、ここで大事ことは、先ほども出てきているように、用語の整合も出来ていない。それから、柱のキーワードも整理されていない、ということは重々あります。だから、たくさん提案が、指摘が出ているので、それを全部今見直す形になりますので、時間がない中でどうするか、24時間体制でやるしかありません。10日もあれば、なんでもできますので、ここまで来たら8合目までは来ていると思っています。あと2割のところまでトップに行くために、何をすればいいのか、役割分担をしていただいて、ひたすら整合性が取れるような人、1人必要だと見ていますので、そこで全部出してください。これは私も気になる場所でした。だから、これからモザイクを名張らしさという言葉に全部変える作業をやっていただいて、一方では、事業者とかの役割をどうするかということを見ていただいて、一方では、県とかの言葉の使い方をもう1度チェックしていただいて、アンテナをはってやっていけるような役割と、そして、部長は庁内で産業部とかで何か動きがあるなら、連携取れるようにしていただくと。そして、アニメ上手な職員さんいます。レジ袋のときに、何かいろんな名張らしいことをやってくれたので、その方が、丸丸々がいいのか、もう少し立体的な丸がいいのか。点々点々、これトラックなんですけど、これトラックには見えないんです、まわらないといけないので、それをどういうふうにトラックをまわすのか。この結石が、繋がる血管が細すぎるんです。だから体は大きいのに血管は細いから、これ死んでしまう。だから、これはどういうふうに付けていくのか、デザイン的なところも1つお願いをして、ぱっと見たときに、美しくて分かりやすいものがベストなんです。それを目指して2月3日に会いますので、よろしくをお願いします。

それでは、1の議題はよろしいでしょうか。ありがとうございました。ではもう1つが、使用済み小型家電リサイクルの取組について、お願いします。

## (2)その他

事務局

それでは、お手元に資料を配らせていただきます。前回ゴミゼロ社会のプログラムを進めさせていただいているところで少し説明させていただいたかと思いますが、使用済み小型家電のリサイクル、これは、国の実証事業を利用させていただいて、導入費を無料という形でボックス等置かせていただくということで、チラシと広報、別途配布した資料を配らせていただきます。名張市は地域づくり組織が15ありますので、15箇所と、それから市役所と置かせていただいて、進めていきます。ゴミゼロ社会を目指し、そして資源循環型の社会を実現していこうという取組ですので、参考に配らせていただきました。

会長

1月30日からですか。

事務局

1月30日からです。

委員

余計なことですけど、大阪市は市で回収するそうです。

会長

18くらいの自治体で手が上がったんですね。

委員

そうです、環境省が業者を全然決められなくて、大阪市は自分のところで回収するという体制を始め  
ています。

委員

これは全国的なものですか。

会長

モデル都市がいくつかあるんです。

委員

制度はできているが、運用ができないんです。業者を決めてないから。

会長

名張はえらい。どんどんやってほしいです。

事務局

お金ないところ、導入の物品がいただけるということで、ここで手を挙げないと。

会長

国の制度であろうと、人のふんどしであろうと名張市にプラスになることなら、どんどん手を挙げて  
やっていくと。これがここ（小型家電）だけじゃなく、全部まわっていくようにならないといけないと思  
っております。

委員

是非頑張ってください。

会長

これも新聞に載っていたけど、ホームページにも載せて。

事務局

載せさせていただいていますし、今地域には回覧もしています。

委員

地域に来ています。

会長

よろしくをお願いします。ではその他何かアナウンスありますか。

事務局

2月3日月曜日2時からお願いをいたしますが、場所については市役所が空いていませんでしたので、  
いきいき、武道館があるところをお願いしたいと思います。また地図も付けて、1週間ほど前にご案内  
させていただきます。今日熱心にご審議いただきましたことにつきまして、修正を加えて、事前に資料  
を送らせていただき、当日またご議論のほうをお願いします。

会長

完璧じゃなくてもいいので、できるだけ早い段階で送っていただければありがたいです。

事務局

早い段階で送らせていただきます。

会長

フルペーパーにさせていただいて、私たちには、メールでいいです。紙もったいないので。

会長

それとくどいようだが、デザイナー、よろしくお願いします。見た目勝負大事だと思いませんか。これは一般市民が見るのでからよろしくお願いします。

では、これをもって第2回名張市快適環境審議会を終わらせていただきます。ご協力ありがとうございました。

委員多数

ありがとうございました。